

幼保小の架け橋プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

夏休みの計画、そろそろですか…！？

「幼保小でお互いの施設を訪問して子どもの様子や環境を見たり、意見交換をしたりする機会をもちたい」という思いがあるものの、日頃の職員の交流にはなかなか時間が取れないのが実情でしょう。そこで、夏休みの時期だからこそできる交流のヒントを、ご紹介します！

夏休みの保育園を訪問してみよう！

小学校、幼稚園が夏休みに入っても、保育園には日々子どもたちが登園してきます。そこでこんな訪問はいかがでしょう。

- 小学校職員が園を訪問し、保育の実際を見学
- 参観後にお昼寝の時間などを使って対話

【対話のテーマの例】

- ・具体的な子どもの姿から感じた育ちや学び
- ・環境構成や援助の具体
- ・小学校の単元学習のヒントになりそうなことを情報収集(交流のある地域の人材、育てている花や野菜とその活用等)
- ・最近子どもたちが夢中になっていること

「架け橋カリキュラム」を考えるために、まずは園と学校が互いを知り合うことが大切です。それは「お互いの職員の顔」であり、「お互いが保育・教育の場で取り組んでいること」でもありますが、何よりも「お互いが子どもの育ちを支える上でだいにしていること」ではないでしょうか。「子どもは本来、自ら伸びようとする能動的な学習者である」という子ども観を大切にしたいものです。

日頃交流している小学校がなくて…という園のみなさん。まずは、ここに参加してみませんか。

幼保小教育交流事業

区幼保小教育交流事業 横浜市
(yokohama.lg.jp)

地区の実行委員会を中心に、公開授業・保育、研修会等を実施しています。今年度の計画は、各地区の実行委員長にお問い合わせください。

それがきっかけとなって、近隣の小学校との対話が生まれるかもしれません。(HP 参照)

小学校との交流を希望する園は多いため、1つの小学校ですべての園と、同じような頻度や内容で交流の機会をもつことは困難です。

そこで小学校の方で、このように考えていただくことはできないでしょうか。

- ★定期的な交流は連携する園と
- ★他の園とは訪問可能な日を設定

【過去に実施された事例】

- 「図書館 open-day」
- 1年生の学習発表に園児を招待

園としてでなく、親子で来てもらうのもひとつの方法です。また、園のお散歩コースに入れたり、学校のトイレを借りたりするのも、体験につながります。学校からの情報は、学校HPや区幼保小教育交流事業で発信できます。

今年の夏も暑そうです。

みなさま、お体大切に！！